

第3学年2組 総合的な学習の時間学習指導案

令和2年

(略)

児童数

指導者

場 所

体育館

1 単元名 新堀小全力オリンピック ～めざせ金メダル～

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

(略)

(2) 単元について

2021年7月23日から8月8日までの17日間、東京都を中心にオリンピック競技大会が開催される。また、2021年8月24日から9月5日までの13日間、東京都を中心にパラリンピック競技大会が開催される。4年に1度のオリンピック・パラリンピックが身近な地域で開催されるため、児童にとっての興味・関心を高める学習材として最適だと考える。

また、オリンピック・パラリンピックは、地理や歴史という社会の見方、記録や時間という算数の見方、スポーツという体育の見方など、様々な角度から考えることのできる学習材である。したがって、教科等横断的な指導につなげやすく、各教科の見方・考え方を総合的に活用することが求められる総合的な学習の時間にふさわしい学習材であると考え。

(3) 指導について

指導にあたっては、単元の導入において学習のゴールを「クラスの友達にオリンピック・パラリンピックのクイズを出す」と児童とともに設定する。そして、学習のゴールに向かってどのような探究的な活動を進めていくべきか学習計画表をつくり、学習の見通しを児童と共有する。

児童はクラスの友達にオリンピック・パラリンピックのクイズを出すという目的のもと、オリンピック・パラリンピックについて探究的な学習を行っていく。相手や目的を明確にし、学習の見通しを持つことで、児童の主体的な学びにつなげたい。また、調べたり体験したりしたことを数人のグループで整理・分析し、まとめていく。グループの中で考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりさせることで対話的で深い学びにつなげたい。さらに、学習のまとめとして、全体を振り返り、これからの探究的な活動について考え、深い学びにつなげていきたい。また、「各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・自生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続ける」という総合的な学習の時間における探究的な見方・考え方を働かせることも、深い学びにつなげるための手立てとする。

学習過程としては、まずオリンピック・パラリンピックについての児童の既存知識をイメージマップで広げる。イメージマップを使うことは国語の学習でも行っているため、児童にとっては取り組みやすい活動だと

考える。そして、イメージマップで広げた既有知識から自らの課題を決める。学級で課題を共有していく中で、同じテーマの課題ごとに3～4人のグループを作る。その際、本単元では、オリンピック・パラリンピックに各教科の見方・考え方から迫らせるために、テーマを教科で設定する。例えば、社会であれば出場国や歴史、算数であれば記録や時間等の数字に関わること、体育であれば種目とする。3年生という発達段階を考えると、児童にとって難易度の高い学習になることが予想されるが、本校の研究における「教科等横断的な指導」とつなげるための手立てとしたい。次に、自らの課題について本やインターネット、身近な人へのインタビュー等で情報を収集させる。収集した情報は思考ツールを活用しながら整理・分析させる。思考ツールについては、これまで各教科で教師が提示したものを使用するという段階であったが、本単元においては児童が自ら選び活用できるように指導していきたい。

なお、思考ツールを活用する児童の成長のステップとして、『関大初等部式思考力育成法ガイドブック』（さくら社 2015）において、田村学は以下のように整理している。

- ①ステップ1【単独】：教師が用意した思考ツールを活用して考える
- ②ステップ2【選択】：子供が自ら思考ツールを選んで考える
- ③ステップ3【複合】：子供が複数の思考ツールを組み合わせて考える
- ④ステップ4【創造】：子供がオリジナルな思考ツールを開発して考える
- ⑤ステップ5【独立】：子供が思考ツールを使わずに考える

①～⑤のステップを見ていくと、単に学習活動で思考ツールを使えばよいだけではないことが明らかになってくる。まずは、どの思考スキルを使って情報処理をし、どのような思考ツールを使って可視化することが考えを深めるのに効果的であるかを学習者自身が理解していることが欠かせない。次に、多様な思考ツールを経験することが必要になる。様々な思考のタイプとフレームイメージをシンクロさせ、考えていく過程をメタ認知的にとらえることが必要になる。そのためにも、思考ツールを使った学習活動に話し合いなどのインタラクションを位置付けることが有効となる。最後は思考ツールを活用することのよさを実感することが必要になる。自分にとっての価値ある学習こそが新たな工夫や創造を生み出すからである。

このような思考ツールを活用する児童のステップの中で、これまで各教科において「ステップ1【単独】：教師が用意した思考ツールを活用して考える」という段階を経験しているため、本単元では「ステップ2【選択】：子供が自ら思考ツールを選んで考える」を目指し、指導を行いたい。

単元の最後に、整理・分析した情報をクラスの友達へのクイズとその解説という形でまとめ、学級で発表させる。さらに、それぞれの発表を受けて、オリンピック・パラリンピックをどのような視点から楽しむことができるかを振り返らせ、生活の場面につなげたい。そして、来年に迫ったオリンピック・パラリンピックを自分事としてとらえられるようにしていきたい。以上のように、探究的な学習の過程を質的に高めることで、児童にとって深い学びとなるようにする。

本時では、児童が各教科の見方・考え方を働かせて考えたクイズを整理・分析する活動を行う。その際、クイズをあらかじめ付箋に書かせておき、思考ツールを活用しながら整理・分析させる。まず、どのようなクイズがふさわしいかを学級で共有する。次にテーマごとに、どのクイズがふさわしいかをホワイトボードや思考ツールを活用しながら協働的に考えさせる。また、教科等横断的な視点を持たせるために自分のテーマだけではなく、他のグループのテーマについても考える活動を取り入れる。最後に、本時の学習が生活の中でどのように生かせるかを振り返るとともに、次時への意欲付けをする。

3 研究主題との関わり

研究主題
 「幅広い学習や生活の場面で活用できる力を育む」
 ～教科等横断的な指導を通して～



仮説1 意図的に活用場面を設定すれば、習ったことを生活場面で活用できるようになるだろう



手立て① ・生活場面を想起させる授業の工夫
 ・知識を活用する場面を生活の中に取り入れていく



具体的な方法
 ・振り返りで本単元の学習が生活の中でどのように生かせるかを記入し、生活場面での実践を考えさせる
 ・児童の設定した単元のゴール「同じクラスの友達にオリンピック・パラリンピックについてのクイズを出すこと」を探究的に身に付けた知識・技能を活用する場面とする

仮説2 いろいろな教科が関わることで、生活場面で活用する教科の幅が広がるだろう



手立て② ・教科のつながりがわかる年間指導計画の改善
 ・教科のつながりを見える化、声かけをする



具体的な方法
 ・オリンピック・パラリンピックについて教科等横断的な視点から考えることで、生活の場面でも各教科の見方・考え方を総合的に活用できるようにする

4 単元の目標

オリンピック・パラリンピックについて探求する活動を通して、その精神（歴史、意義、勝ち、役割等）や競技種目の特徴やルール、参加国・地域の歴史・文化等について理解を深め、様々な視点からオリンピック・パラリンピックについて考えるとともに、今後の自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①オリンピック・パラリンピックの精神（歴史、意義、勝ち、役割等）や競技種目の特徴やルール、参加国・地域の歴史・文化等について理解している。 ②自己の課題について、本やウェブサイト等から必要な情報を数多	①オリンピック・パラリンピックを教科等横断的な視点からとらえ、課題を明らかにしている。 ②自己の課題解決に必要な情報について、手段を選んで多様な方法で収集したり、種類に応じて蓄積したりしている。	①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 ②オリンピック・パラリンピックについて探究的な活動を通して、自分と違う友達の考えを生かした

く収集している。 ③オリンピック・パラリンピックが自分自身とかかわっているという理解は、オリンピック・パラリンピックについて探求的に学んだことによる成果であると気付いている。	③課題解決に向けて必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えている。 ④オリンピック・パラリンピックについてのクイズとその解説を聞き手にわかりやすく伝えている。	がら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 ③オリンピック・パラリンピックについて自分でできることを見付けようとしている。
--	---	--

6 指導と評価の計画（14時間扱い） 本時8/14時

※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

探求の過程	○主な学習活動 △児童の思考 ●学習内容	・指導上の留意点 ★評価（評価方法） ☆教科等横断的	時数
	<p>○総合的な学習の時間についてのオリエンテーションを行い、探究のプロセスについて知る。 △総合的な学習の時間の授業の流れについてわかった。これからがんばろう。</p> <p>●探究のプロセス</p> <p>○学習内容を踏まえ、学習のゴールを設定する。学習のゴールに向かい、学習計画を立てる。 △学習のゴールに向かって学習していこう。</p> <p>●学習の見通し</p>	<p>・総合的な学習の時間における探求のプロセスとして「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を説明し、総合的な学習の時間における学習過程を明らかにする。</p> <p>・学習のゴールや学習計画を児童とともに立てることで、学習の見通しを持たせ、主体的な学びにつながるようにする。</p> <p>☆見通しをもって学習に取り組むこと</p>	1
	<p>学習のゴール 同じクラスの友達にオリンピック・パラリンピックのクイズを出そう。</p>		
課題	<p>○オリンピック・パラリンピックについて、イメージマップで考えを広げる。 △国語の時間に使ったイメージマップで考えを広げよう。</p> <p>●オリンピック・パラリンピックについて</p> <p>○イメージマップで広げた考えを生かし、自己の課題を設定する。 △種目について調べてみたいな。 △出場国が気になるな。</p> <p>●課題の設定</p> <p>○同じ課題ごとに数人でグループを作る。 △体育の視点では、種目が当てはまるかな。 △算数では数字に着目してみよう。 △社会では歴史を考えてみよう。</p> <p>●各教科の見方・考え方の働かせ方</p>	<p>・自らの考えを広げるためにイメージマップを活用し、オリンピック・パラリンピックのイメージを広げていく。</p> <p>☆イメージマップの活用</p> <p>・イメージマップで広げた自身の考えから、課題として追究したいものを決めさせる。課題の設定については、児童の調べたいものを優先し、教師があらかじめ設定した課題でなくても構わないこととする。</p> <p>☆各教科等の見方・考え方 ★思・判・表①（イメージマップ）</p>	2

<p>情報</p>	<p>○課題について情報の収集をする。 △これまでにテレビや新聞で見たこともメモしておこう。 △できるだけ多くの情報を集めよう。</p> <p>●情報収集の方法</p> <p>●オリンピック・パラリンピックについての理解</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>算数（記録や時間など） 音楽（国歌やテーマ曲など） 社会（歴史や出場国など） 理科（競技に使われる科学技術など） 体育（種目の特徴など） 図工（キャラクターやそのデザインなど）</p> </div>	<p>・調べる方法がわからなかったり、偏ってしまったりしている場合には、具体的な方法をアドバイスする。</p> <p>・本やインターネットを活用させ、できるだけ多くの情報を収集させる。</p> <p>・収集した情報はワークシートに書き出させたり、ホワイトボードに記入したりして蓄積しておく。</p> <p>☆各教科の見方・考え方</p> <p>★知・技① ★知・技② ★思・判・表② （ワークシート・ホワイトボード）</p>	<p>3</p>
<p>整理 [本時]</p>	<p>○収集した情報を整理・分析する。 △オリンピック・パラリンピックについてのクイズを出すのにどんな情報が必要かな。 △前に使った考えるためのアイテムを使って、情報を整理してみよう。</p> <p>●情報の整理・分析の方法</p> <p>●オリンピック・パラリンピックについての理解</p>	<p>・各教科の視点からオリンピック・パラリンピックについてのクイズが出せるように、調べた情報をよく吟味させる。</p> <p>・他教科で活用してきた思考ツールを選択し、情報の整理・分析を行わせる。</p> <p>☆協働的な学び</p> <p>★思・判・表③ ★主② （ホワイトボード・振り返り）</p>	<p>3</p>
<p>表現</p>	<p>○クイズの出し方や解説の方法を考える。 △どんな方法で発表しようかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・模造紙 ・地図 ・紙芝居 ・映像 ・ニュース形式 ・ペープサート 等</p> </div> <p>●まとめ方</p> <p>○クイズ大会のリハーサルをする。 △発表の練習をしたら、直さなければならぬところがわかったな。 △もっとクラスの友達が楽しめるようにするにはどうしたらいいかな。 ○クラスの友達にオリンピック・パラリンピックについてのクイズを出す。 △相手が楽しめるクイズにしよう。</p> <p>●発表の方法</p> <p>○オリンピック・パラリンピックと自己との関わりを考えさせ、単元の振り返りをする。 △オリンピック・パラリンピックが楽しみだな。</p>	<p>・目的や相手を明確にして、表現方法を考えさせる。</p> <p>☆表現方法</p> <p>・グループごとにどの方法ならわかりやすく伝えられるか話し合わせる。</p> <p>★思・判・表④ ★主① （ワークシート・発表・発表資料）</p> <p>・聞き手を意識してわかりやすく発表させる。</p> <p>☆発表方法</p> <p>・オリンピック・パラリンピックと自己との関わりを考えさせる。</p> <p>★知・技③ ★主③ （ワークシート）</p>	<p>5</p>

7 本時の学習指導（8／14時）

（1）本時のねらい

情報の整理・分析をする際にホワイトボードや思考ツールを活用することで、課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら解決に向けて考えることができる。

（思考力、判断力、表現力等）

（2）本時の展開

学習活動	学習内容	○指導上の留意点（配慮・手立て） ◎評価 ☆教科等横断的 ★生活の場面
1 本時のめあてを知る。	<p>今回の総合的な学習の時間のゴールはどんな活動ですか？ それが何につながりますか？</p>	<p>○本時のねらいとともに学習の流れを確認し、見通しを持って活動できるようにする。 ★オリンピック・パラリンピックを楽しく見るためにクイズを出題するという学習のゴールを確認する。 ○たくさんのクイズを考えた中でどのクイズを出題するべきかという課題意識を持たせる。</p>
<p>どんなクイズを出そうかな？</p>		
<p>2 どのようなテーマについて調べたのか、どんなクイズができているかを確認する。 3 グループで情報の整理・分析をする。</p>	<p>・情報の整理・分析</p> <p>それぞれのグループでどのようなクイズが考えられていますか？教科との関わりはありますか？</p>	<p>☆各教科の視点からクイズを考えていることを確認し、各自がどのようなクイズを考えているのかグループで共有する。</p> <p>算数（記録や時間など） 音楽（国歌やテーマ曲など） 社会（歴史や出場国など） 理科（競技に使われる科学技術など） 体育（種目の特徴など） 図工（キャラクターやそのデザインなど）</p>
4 自分の課題ではないグループと意見交流し、情報の整理・分析を深める。	<p>他のグループのホワイトボードも見たくないですか？自分の教科の視点を持ったまま、他の教科のホワイトボードを見に行ってみましょう。</p>	<p>○クイズはあらかじめ付箋に書かせておき、付箋を動かしながら整理・分析を行えるようにする。 ◎思考ツールを活用することで、整理・分析することができる。（ホワイトボード） ☆違う教科のグループがどのように情報を整理・分析したのか自由に見に行かせる。自分の教科ではないグループと間接的に交流することで、教科等横断的な視点から整理・分析した情報について考える。</p>
5 グループでの活動の様子を全体で共有する。 6 学習を振り返る。	<p>この時間の学習で生活に生かせることを振り返りに書いてみましょう。</p>	<p>○情報の整理・分析がうまくいっているグループを指名し、よい点を全体で共有できるようにする。 ★本時の学習が生活の中でどのように生かせるのか振り返らせる。</p>

8 板書計画

<p>クラスの友達にオリンピック・パラリンピックのクイズを出そう！ どんなクイズを出そうかな？</p>		
○活動の手順	○グループ活動の結果	○振り返り

9 本単元で活用する思考ツール

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編では、「考えるための技法」として思考ツールの活用について以下のように示されている。

「考えるための技法」を可視化して使うことには次のような意義があると考えられる。

一つには、教科等を越えて、児童の思考を助けることである。抽象的な情報を扱うことが苦手な児童にとっては、それを書き出すことで思考がしやすくなる。各学校の中で、例えば「〇〇小学校思考ツール」として共通のワークシート等を活用することが、各教科等における思考力、判断力、表現力等を育成する上でも有効であると考えられる。

二つには、協働的な学習、対話的な学習がしやすくなるということである。紙などで可視化することにより、複数の児童で情報の整理、分析を協働して行いやすくなる。

三つには、学習の振り返りや指導の改善に活用できるということである。一人一人の児童の思考の過程を可視化することにより、その場で教師が助言を行ったり、児童自身が単元の終わりに探究の過程を振り返ったりすることに活用できる。

本単元においても、児童の思考を助けるための手段として思考ツールを活用していく。以下に、埼玉県教育委員会より思考ツールの活用についての資料を示す。

思考ツールの活用

1 思考ツールの決定

教師が板書で使う

児童生徒が使う

2 思考ツールの種類

思考スキル	思考ツール	思考スキル	思考ツール	思考スキル	思考ツール
比較する	ベン図 	分類する	Yチャート Xチャート 	理由付ける	クラゲ・チャート ※関係付ける
関連付ける	イメージマップ ※広げてみる	構造化する	ピラミッドチャート なぜ・なにシート ※考えを導く	位置付ける	座標軸 ※比較・分類する
順序立てる	ステップ・チャート 	多面的見る	お魚ボーン図 くま手チャート ※分析する ※アイデアを出す		

参考文献：シンキングツール ～考えることを教えたい～
http://www.ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf

本学級では、思考ツールをいつどんな学習で活用したのかを掲示している。さらに、それぞれのツールに名前を付けさせ、身近な存在として活用できるようにしている。これらの手立てによって、本単元ではグループでの情報収集や情報の整理・分析においてグループで協働しながら思考ツールを選択できるようにしたい。そして、ツールを活用することによって児童の思考を深めたり、広げたりしていきたい。